

### 3. “大山の水”が生んだ白鳳の大都市「妻木晩田」

#### <清らかな水のあるところにてきた大山寺>

- ・ 大山寺縁起には、出雲の国 玉造の獵師依道が狼を追いかけて深山に踏み入ったところ地蔵菩薩が表れた。狼に身を変えた大山の神が「清い水のあるところに祠を建てて地蔵菩薩をお祀りしなさい」と言ったと伝わっている。
- ・ その依道が大山寺の開祖といわれている「金蓮上人」である。
- ・ つまり、大山は「清らかな水」のあるところなのである。

- ・ 大山で自然公園指導員を勤める遠藤氏によると。

#### ☑ 伝承者 遠藤勝壽氏：

- ✓ 大山は1万数千年前までにできた成層火山である。
- ✓ 豊富な湧水を有する富士山と同じような成り立ちである。火山灰や火砕流が降り積もってできているため、雪解け水などがしみ込みやすく豊富な水を蓄えている。
- ✓ また、西日本最大級のブナの原生林を抱えている。ブナは、緑のダムと言われるほど保水力がある。
- ・ その豊富な水が大山の周辺のいたるところで湧き出している。
- ・ 大山頂上には、地蔵ヶ池、梵字ヶ池という二つの池がある。この水を「關迦（あか）水」と言い、大山で最も神聖な水とされている。江戸時代に大山で行われていた弥山禅定の行事では、大山山頂に登った行者が、写経を納めた後、持っていった「關迦桶」に、この「關迦水」を汲んで帰り山内の寺坊に配ったという。

#### <大山寺周辺に湧く水>

- ・ 金蓮上人がどこに地蔵菩薩を祀ったかは別として、大山寺と榎水を結ぶ標高 700～800 m付近には湧水が多く見られる。大山を釣り鐘とするならば、その縁に当たる場所である。
- ・ 榎水高原の「榎水」は、一年中玉のような水をたたえていたと言う「真清水（ましみず）」がもととなったという。横手道の鳥居を下ったところにある「清浄泉」、大山寺縁起絵巻にもその名を刻む「利生水」などがある。
- ・ このような清らかな湧き水が、最盛期に寺坊 106 坊、衆徒 3000 人を抱えていたという寺院集団「大山」が、この地に出来たきっかけであったのかも知れない。

#### <大山山麓の湧き水>

#### ☑ 伝承者 遠藤勝壽氏：

- ✓ 昔から岸本の丸山橋の袂から湧水が湧いていた。その湧水が滝となって南光河原から流れてくる佐陀川に注いでいた。その湧水の水源には「滝地蔵」が祀っており、大山まいりの人が足を休め、滝地蔵に手を合わせたという。
- ・ 現在は堰堤ができて滝は姿を消しているが、今なお豊富な湧水が湧いており、上水道の水源ともなっている。

- ・ 大山山麓で最も有名な湧水が淀江町の「本宮の泉」と「天の真名井」である。そして天の真名井からほど近いところに「上淀廃寺跡」と「妻木晩田遺跡」がある。
  - ・ 「豊かな入り江」・・・「淀江」に渡ってきた渡来人たちが、きれいな水のある妻木晩田に大きな集落を築いたとしても何ら不思議ではない。
  - ・ 妻木晩田遺跡は孝霊山の麓にあり、その地域を昔「高麗村」と呼んでいた。
- ☑ 伝承者 相見行佳氏：
- ✓ 朝鮮半島で戦乱が続き混乱していた時代に、孝霊山の麓に移住してきた人たちがいた。優れた文化を持っていた彼らは土地の人たちから優遇されていたと思う。
  - ✓ 孝霊山に伝わる大山との背比べの伝承は、彼らが故郷を忍んで伝えた話ではないだろうか。

<美保湾に湧き出す湧水>

- ・ その湧水は、地上からだけではなく海中からも湧いているという。
- ☑ 伝承者 石村隆男氏：
- ✓ 美保湾でも数カ所から湧水が湧き出している。
  - ✓ その水があるために美保湾で採れる魚が美味しいという話もあるという。